

# フェスタサマーミュージーザ

## KAWASAKI 2020

ミュージーザ川崎シンフォニーホール

サマーミュージーザは全公演ライブ配信を実施しております。客席内と舞台上に映像収録カメラが入りますので、予めご了承ください。

## 東京フィルハーモニー交響楽団

Tokyo Philharmonic Orchestra

ベートーヴェン生誕250年

新世代の旗手たちによる「三重協奏曲」、そして感動が蘇る！尾高忠明のチャイコフスキー

# 8/2日

● **プレトーク**  
14:20~14:40

話=尾高忠明  
近藤 薫

※本公演と同じお席でお楽しみください。

● **開演**  
15:00

● **終演予定**  
17:00

曲目

ベートーヴェン:ヴァイオリン、チェロとピアノのための三重協奏曲  
八長調 作品56\*

(35分)

Beethoven: Triple Concerto for Violin, Cello and Piano in C major, Op. 56

第1楽章 アレグロ  
第2楽章 ラルゴ  
第3楽章 ロンド・アラ・ポラッカ

—休憩(20分)—

チャイコフスキー:交響曲第5番 ホ短調 作品64

(50分)

Tchaikovsky: Symphony No. 5 in e minor, Op. 64

第1楽章 アンダンテ - アレグロ・コン・アニマ  
第2楽章 アンダンテ・カンタービレ、コン・アルクワナ・リチェンツァ  
第3楽章 ワルツ:アレグロ・モデラート  
第4楽章 フィナーレ:アンダンテ・マエストーソ - アレグロ・ヴィヴァーチェ

※演奏時間は目安です。

出演

指揮: **尾高忠明**(桂冠指揮者)

ヴァイオリン: **戸澤采紀\***

チェロ: **佐藤晴真\***

ピアノ: **田村 響\***

コンサートマスター: **近藤 薫**(コンサートマスター)

※出演者・公演内容につきましては変更が生じる場合がございます。

### △ 新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、ご協力をお願いいたします。

【お客様へのお願い】

- ※マスク着用、手指消毒にご協力ください。
- ※終演後は、スタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いている扉から混雑を避けてお帰り下さい。
- ※出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ※万一、クラスター(感染集団)の発生が明らかになった際、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

【館内設備について】

- ※クローク、ドリンクコーナー、ショップの営業はございません。
- ※冷水器の使用は停止しております。
- ※換気のため、通常よりも空調を強めにしております。また、隣席を空けているため、普段よりも寒く感じる場合がございます。(ブランケットの貸し出しは中止しております)
- ※アンコール曲は公演後、当ホールホームページに掲載いたします。

### ご登録をお願いします

神奈川県 LINE コロナお知らせシステム

会場内に掲示しているQRコードを読み取ってください。新型コロナウイルスに感染された方が発生した際、保健所の調査に必要と判断された場合にLINEメッセージが届きます。

※来場日ごとに、QRコードの読み取りをお願いします。

### ホール内は小さな音でもよく響きますので、ご協力をお願いいたします

- 演奏中の入退場はご遠慮ください。
- 鈴のついたアクセサリー、お手荷物などは演奏中に音が出ないように、十分ご注意ください。また、アメの包み紙を開ける音にもご注意ください。
- ホール内での飲食はご遠慮ください。
- ※曲が終わったとき、音が消えゆく余韻を十分に味わってから、拍手をお送りください。
- 【補聴器をお使いの皆さまへ】  
補聴器が正しく装着されていることをご確認ください。
- 時計のアラーム・時報などは設定の解除をお願いいたします。
- 許可のない写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。

主催: 川崎市、ミュージーザ川崎シンフォニーホール (川崎市文化財団グループ)  
後援: 川崎市教育委員会、公益社団法人 日本オーケストラ連盟、J-WAVE 81.3FM、OTTAVA  
助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会  
映像・音響制作: YouClassics  
協力: 株式会社東京MDE、エヌ・ティ・ティ・スマートコネクト株式会社



### ■出演者プロフィール



指揮: **尾高忠明**

Tadaaki Otaka, *Conductor*

1947年生まれ。国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン響、ベルリン放送響など世界各地のオーケストラへ客演。これまで1991年度第23回サントリー音楽賞受賞。1993年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号を、ウェールズ大学より名誉博士号を、1997年英国エリザベス女王より大英勲章CBEを授与された。さらに1999年には英国エルガー協会より、日本人初のエルガー・メダルを授与されている。2012年有馬賞(NHK交響楽団)、2014年北海道文化賞受賞。現在NHK交響楽団正指揮者、札幌交響楽団名誉音楽監督、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団(旧BBCウェールズ交響楽団) 桂冠指揮者等を務めている。東京藝術大学名誉教授、相愛音楽大学、京都市立芸術大学音楽学部客員教授、国立音楽大学招聘教授を務めている。



チェロ: **佐藤晴真**

Haruma Sato, *Cello*

現在将来を最も期待される弱冠22歳の新進気鋭のチェロ奏者。2019年、ミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門において日本人として初めて優勝。18年にはルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第1位および特別賞を受賞した。98年名古屋出身。第67回全日本学生音楽コンクールチェロ部門高校の部第1位および日本放送協会賞、第83回日本音楽コンクールチェロ部門第1位および徳永賞・黒柳賞など受賞多数。バイエルン放送響はじめ国内外の主要オーケストラと共演しており、今後もプラハ放送響などと共演予定。リサイタル、室内楽でも好評を博している。19年度第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、20年第30回出光音楽賞受賞。ベルリン在住。使用楽器は宗次コレクション賞とのE.ロッカ1903年。弓は匿名のコレクターより賞与されたF.Tourte。



ヴァイオリン: **戸澤采紀**

Saki Tozawa, *Violin*

第85回日本音楽コンクール最年少(15歳)優勝、黒柳賞受賞、第69回学生音楽コンクール中学校の部東京大会第1位、全国大会第1位、横浜市民賞受賞、2017年ティポール・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクール第2位(最高位)等、数々のコンクールで入賞。これまでに、ローザンヌ室内管、都響、東京フィル、東京シティ・フィル、日本フィルらと共演。FMラジオ「リサイタル・ノヴァ」、BSテレ東「エンター・ザ・ミュージック」出演。現在、玉井菜採、ジェラルド・プーレ、堀正文の各氏に師事。江副記念リクルート財団第48回奨学生。使用楽器は、文京楽器の協力によりイギリスのBeare International Societyより貸与されているMatteo Goffriller。東京藝術大学音楽学部2年に宗次徳二特待奨学生として在学中。



ピアノ: **田村 響**

Hibiki Tamura, *Piano*

2007年ロン・ティポール国際コンクールにおいて弱冠20歳で第1位に輝く。以来、ビシュコフ指揮ケルン放送響の定期演奏会デビューおよび日本ツアーを行った他、N響、読響、都響、名古屋フィル、大阪フィルをはじめ国内主要オーケストラと共演。リサイタルを活発に行うほか、室内楽にも積極的に取り組んでおり、宮田大、三浦文彰の各氏等と共演。また、2019年にはマニエル・ルグリがプロデュースするバレエ作品に出演し、ダンス・ステージとのコラボレーションを果たした。愛知県安城市生まれ。18歳でザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学に留学。2015年大阪音楽大学大学院修了。深谷直仁、清水皇樹、クラウド・ソアレス、クリストフ・リースケの各氏に師事。2006年第16回出光音楽賞、2015年第70回文化庁芸術祭音楽部門新人賞等を受賞。京都市立芸術大学専任講師。

### ■オーケストラ・プロフィール

## 東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

【創設】

1911年、「いとう呉服店(現大丸松坂屋)」の少年音楽隊として誕生。

【指揮者】

現在の名称は1948年から。

チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)、アンドレア・パッティストーニ(首席指揮者)、

尾高忠明、大野和士、ダン・エッティンガー(以上、桂冠指揮者)、

ミハイル・プレトニョフ(特別客演指揮者)、渡邊一正(レジデント・コンダクター)、

チョン・ミン(アソシエイト・コンダクター)、大賀典雄(永久楽友・名誉指揮者・故人)

【楽団員数】

139名

【ホーム・コンサート・ホール】

Bunkamura オーチャードホール、東京オペラシティコンサートホール、サントリーホール

【楽団ウェブサイト】

<https://www.tpo.or.jp/>



TOKYO PHILHARMONIC

● 感動をもう一度！アーカイブ配信で  
本日の演奏をお楽しみいただけます。 **1公演 1,000円**  
配信期間: 公演翌日12:00~8/31(月) 23:59  
<https://tiget.net/tours/summermuza2020/>

● アンコール曲 ● ほほ日刊サマーミュージーザ ONLINE!  
● アンケート ● パートナーショップ特典  
はこちらの特設サイトより

<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

ミュージーザ川崎シンフォニーホール ホールスポンサー		ミュージーザ川崎シンフォニーホールの公演事業は、ホールスポンサーの皆様によって支えられています。			
<p><b>法人</b> 【特別賛助会員】 NTTアドバンステクノロジー株式会社 川崎幸病院 川崎信用金庫 川崎フロンターレ キャンノン株式会社 サントリーホールディングス株式会社 大本山川崎大師平間寺 三井不動産グループ 株式会社ヨドバシカメラ</p> <p>【賛助会員】 税理士法人あおぞら会計 味の素株式会社 川崎事業所 アルファクス株式会社 株式会社イープラス ENEOS株式会社</p>	<p>有限会社エムシーエス・デザインズ 神奈川臨海鉄道株式会社 川崎アゼリア株式会社 公益社団法人川崎市医師会 川崎市信用保証協会 公益社団法人川崎市病院協会 一般社団法人川崎市薬剤師会 川崎臨海臨港バス株式会社 川崎日航ホテル かわさきファズ株式会社 川崎臨港倉庫埠頭株式会社 株式会社きんでん 株式会社ケイエスピー ケイジーケイ株式会社 京浜楽器株式会社 株式会社さかい屋 川崎店 公益財団法人JFE21世紀財団 株式会社シグマコミュニケーションズ</p>	<p>セレス川崎農業協同組合 高橋昌也税理士・FP事務所 株式会社デイ・シイ 東亜石油株式会社 株式会社 東芝 東洋ロザイ株式会社 日本窯炉株式会社 びあ株式会社 富士電機株式会社 ホテルメトロポリタン川崎 株式会社ムーブエイト ヤマハサウンドシステム株式会社</p>	<p><b>個人</b> 阿部 孝夫 磯野 和久 市橋信一郎 井上 敏昭 遠藤 智和 大木志乃生 大越麻美子 大塚 具幸 小笠原 将 岡野 功 小野 洋彰 金山 直樹 喜多 絢一 久住 映子 小菅みつほ 後藤 実 小林 知子</p>	<p>斉藤 隆徳 佐藤 亨 佐藤 晴哉 鈴木 徹 関口 浩・三代子 高橋 美子 竹内 啓介 都築 豊 中村紀美子 西山 英昭 橋本美子 長谷川喜代江 林 直人 平野 信子 廣瀬 治昇 前田 泉 松本 武巳 山内 利夫</p>	<p>山下 啓史 山田 昌克 N. A 他器名6名 他1法人</p>

(2020年7月1日現在)

# 俊才たちのフレッシユな技の競演 日本を代表するマエストロの活力と情熱の発露

## ●3つの楽器のソロを一挙に堪能できる、楽聖の異色作

本日前半は、今年生誕250周年を迎えたウィーン古典派の巨匠ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）の**三重協奏曲**。「トリプル」の略称でも呼ばれる、若干変則的な協奏曲だ。複数の独奏者をもつ協奏曲には、独奏楽器群と総奏群が交代しながら進むバロック時代の「合奏協奏曲」がある。その流れを汲むのが、18世紀にパリ等で人気を集めた「協奏交響曲」。ヴァイオリンとヴィオラをソロにもつモーツァルトの作品がよく知られている。しかしソロの“ヴィルトゥオーゾ協奏曲”が主流となった19世紀以降は激減し、同系の曲でメジャーなのはブラームスの「ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲」くらいしかない。

本作は、「英雄」交響曲と同時期の1803～04年に書かれたとみられている。しかし作曲の経緯は明らかになっていない。以前は「弟子でもあったパトロンのルドルフ大公のピアノ演奏を想定して作曲された。従ってピアノ・パートが易しく書かれている」といわれていたが、この説も近年はほぼ否定されている。ならば誰かの依頼か？出版が目当てか？ それにしては出版が1807年、公開初演が1808年と作曲後かなり経ってから成されており、謎は深まるばかりだ。

曲自体も、「3つの独奏楽器のための協奏曲」と「オーケストラ伴奏付きのピアノ三重奏曲」の要素を兼ね備えたユニークな内容。3楽器のソロ&アンサンブルの妙、ソロとオーケストラの多様な組み合わせ、そして明快な曲調が魅力を成している。また3楽器の中ではチェロの活躍が著しく、多くの主題を先導する上かなりの難技巧が求められている。

第1楽章は長大で堂々たる音楽。冒頭に低弦が第1主題、続いて第1ヴァイオリンが明るい第2主題を出した後、順に独奏が入り、様々なやりとりを繰り広げる。第2楽章は間奏曲風の短い緩徐楽章。ピアノの分散和音に乗ったチェロとヴァイオリンの歌を主体に進む。切れ目なく入る第3楽章は、チェロが出す主題を軸にしたポロネーズ調の軽快な音楽で、ここは特に人気が高い。

## ●壮麗でシリアスで甘美な、ロシア屈指の人気交響曲

後半は、ロシア最大の作曲家ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（1840～1893）の三大交響曲の2番目にあたる**交響曲第5番**。シリアスさ、甘美さ、情熱、歌、迫力等々、この作曲家の魅力を満載した傑作にして、ロシアの全交響曲の中でも最上位の人気を得ている名曲だ。

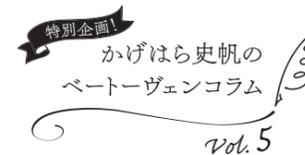
交響曲第4番から約10年、指揮活動等で外国に滞在することが多く、創作活動が若干停滞気味だったチャイコフスキーは、旅行中にブラームス、グリーグ、ドヴォルザーク、マーラー等と知り合い、近代的なオーケストラ演奏にも触れて、少なからず刺激を受けていた。そして1888年、「まるで絵画のような」（自身の手紙より）環境のフロロフスコエ村に居を構えたのを機に創作意欲が沸き上がり、僅か3ヶ月ほどで本

作を完成。同年ペテルブルクにおいて自身の指揮で初演した。この時は批評家の評価も低かったが、翌年ドイツのハンブルクで成功を収めて以来、西欧を中心に人気を獲得した。

チャイコフスキーは、第1楽章冒頭の重々しい旋律を「運命、もしくは神の摂理への完全な服従」と表現した。そこで「運命」が本作のテーマだと解釈されており、冒頭でクラリネットが出す旋律は「運命主題」と呼ばれている。さらには、運命主題が「固定楽想」として各楽章のどこかに必ず登場する点、第3楽章に通常のスケルツォではなくワルツを用いている点も大きな特徴。暗い運命主題が終楽章では長調に姿を変え、勝利の凱歌で終結する点も印象的だ。

第1楽章は、遅い序奏で運命主題が提示された後、歩むような第1主題とのびやかな第2主題を中心にダイナミックな展開を遂げる。第2楽章は、ホルンのソロで出される主題を中心とした、甘美で陶酔的な緩徐楽章。だが盛り上がりの頂点を運命主題がさえぎる。第3楽章は作曲者十八番の艶美なワルツ。流麗な主部に小刻みな動きの中間部が対比され、最後に登場する運命主題が夢気分を現実に戻す。第4楽章は、長調の運命主題で始まる荘重な序奏から、短調で速い主部へ移り、荒々しく刻まれる第1主題と木管で出される第2主題を中心に激しく進行。全休止の後、凱旋行進曲のような終結を迎える。

## ■フランスに 移住したかもしれないベートーヴェン



『三重協奏曲』を作曲中の1804年。  
33歳のベートーヴェンは、ナポレオンに熱い視線を送っていました。

ベートーヴェンより1歳年上のフランスの軍師ナポレオン・ボナパルトは、当時、ヨーロッパ各国を圧倒する快進撃を繰り広げていました。ナポレオンこそが革命精神の申し子であると信じていたベートーヴェンは、彼が皇帝に就任すると知って失望し、捧げる予定だった『交響曲第3番』の表紙を破いてしまったと伝えられています。

しかし、ほんとうにベートーヴェンはナポレオンに心酔していたのでしょうか。最近では、この説はやや疑問視されています。ベートーヴェンが興味を抱いていたのは、むしろ、ナポレオンの台頭によって一躍「勝ち組」にのし上がったフランスの経済状況だったようです。実際に当時のベートーヴェンは、ウィーンからパリへの移住計画も立てていました。この珍しい編成の『三重協奏曲』も、フランスで流行していたスタイル。移住後に発表しようとひそかに考えていたのでしょうか。

最終的にベートーヴェンはウィーンにとどまる道を選びましたが、この協奏曲はウィーンでの初演では、あまり高い評価を得られませんでした。しかしもし彼が本当にフランスに移住していたとしたら、この三重協奏曲は「パリで大ヒットした作品」として音楽史に名を刻んだかもしれません。

（かげはら史帆／ライター）